
とあるバカな風紀委員

邪気

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるバカな風紀委員

【Nコード】

N97020

【作者名】

邪気

【あらすじ】

はじめまして邪気と申します。

今回が処女作ですがよろしくおねがいします。

主人公〓波原龍牙なみはら りゅうががいろんな奴（？）に巻き込まれる……
ちなみにヒロインは未定です……

始まり・・・

始まり・・・・・・・・

ジリリリリリリリリリ・・・

「んあゝもうこんな時間かよゝ」

とかいつてるのは俺、波原龍牙だ・・・一応佐天と同じ学校に行っている。

「ちくしょゝねみいゝゝ」

「今何時だあ？」

――――ただいま午前8時――――

学校開始時刻――――午前8時20分――――

「・・・・・・・・・・やべ・・遅刻だ・・・」

俺は、わずか5分で支度しダッシュで学校へ向かった。

「やべー――間に合わねええええー」

急いでた俺は誰かとぶつかってこけた。

「「いつてええええ」」

「んっあんた大丈夫か」と俺が言うと

「ああなんとか大丈夫だ・・・ってあああこんな時間だあああー」

というとツンツン頭は走り去っていった。

「なんだあいつ・・・って遅刻するーーーー」

学校へついた俺は、先生の説教をくらうとクラスへ行った。

ーーーーーキンコーンカーンコーンーーーーー

風紀委員の支部行く途中に佐天と初春が来た。

「どうしたの、珍しいじゃん龍牙が遅刻なんて」

「そうです。なにかあつたんですか？」

「聞いてくれよ、家を急いで出てギリギリ間に合っつていうところ
でツンツン頭の人とぶつかったんだ」

「あはは、それは残念だったね龍牙」

「笑っちゃ失礼ですよ、佐天さん」

「あはは、だつておもしろいんだもん」

「笑うんじゃないええええええええええ」

「あはは、ごめんごめん」

「ったくよ今日はついてねーなあー」

ガチャッ

ドアを開けた瞬間に靴底が顔に近づいてきた。

バコンッ

という音と同時に俺は地面に倒れた

「「大丈夫龍牙^{さん}」」

「いつてええええなにしゃがんだ黒子おおおお」

「あなたが悪いんですの、三日も仕事サボりますから大変だったのですわよ」

「うるせええたまには休みたいんだああああ」

「「毎日休んでるでしょ」」

「そんなに怒るなよ。またパフェおごってやるから」

「ほんとうにですの」

「ああ、二人つきりだな」

ボンツという爆発音が聞こえた。

「んっどうした黒子顔赤いぞ」

「なっな、なんでもありませんの」

（ふっふたりつきりですの、っていうかなんでわたくしドキドキしていますの別に彼のことは嫌いではありませんが・・・）

「さあ仕事するか～～」

「いいなあ～白井さん龍牙とデートできて、ねえ初春」

「ひゃいなんでわたしが龍牙さんとデートしなくちゃいけないんですか」

「でもしたいんですよ～～」

「そりやあしたいですけど・・・」

この日、支部は凄い状態になった、顔を赤くしてぶつぶつ言つ黒子、初春と佐天も顔を赤くしている。

「はあ～今日はついてねえ～～～～～～～～」

始まり・・・（後書き）

読んでいた頂きありがとうございます。
感想などよろしくおねがいします。

ヒロイン募集中――

どうしてこうなった……………

……………今おこっている事を話そう……………

俺の前のテーブルには黒子、隣には佐天、佐天の前には初春、
……………何で？

確かに昨日パフェおごるとか言っただけど、黒子だけじゃなかったっけ？

などと言っていると……………

「龍牙、いらならもらっよ」

ヒョイツ　パク

「あ……………なにしてた佐天、それ俺のパフェええええええ」

「油断してるのがわるいんだよ……………」

「さっさつ佐天さん／＼／＼なんでこんな殿方と間接キスなんかおおおおお」

「ふえ／＼・・・・・・・・・・ボン・・・・・・・・キューーーーーー」

変な音を立てて倒れる佐天しかも顔が赤い・・・・・・・・

「おい、大丈夫か・・・・・・・・熱は無いみたいだな・・・・・・・・何でだ？
」

黒子を見ると、（この変態が・・・・・・・・）などと言っている。

初春を見ると（いいなあ・・・・・・・・）などと言っている。

「二人共どうしたよ・・・・・・・・」

「「なんでもありません（ないです）」

？

まあいいや・・・・・・・・

「やばいな・・・・・・・・」

「どうしたんですの？・・・・・・・・」

「今月の食費が・・・・・・・・・・・・・・・・」

「はぁ~~~~、分かりましたの。　　いつ嫌でないならわっワタ
クシが作ってあげますわ／＼／＼／」

「ほっ本当か黒子おおおお。　　いや〜いいダチだわー。嫁したい
わ」

「おっお嫁さんですの／＼・・・・・・・・ボン・・・・・・・・キュー
ー・・・・・・・・ボタン」

「おいーーーーーお前もかぁーーーーーくそなんなんだ・・・
・・・」

「龍牙さんのせいだと思うんですけど・・・・・・・・」

「えっ・・・・・・・・・・？」

「はぁーーーーもういいです！（鈍感なんですから・・・・）」

「なんなんだ、今日は・・・・・・・・・・はぁー」

果たして四人のデート？はどうなるのか・・・次回へ

どうしてこうなった………(後書き)

感想よろしくお願いします。

デート?.....かな(前書き)

感想よろしくお願いします。

デート？……かな

龍

牙シード - - - - -

――あれから俺たちは、「セブンミスト」という所に来ている。

「なあーなんで俺がここに入らなきゃいけないの？」

何故かおれは、女性専用服に入れられようとしている。

当然、俺は拒んでいるが……あいつらが

「入って（ください）（くださいませ）」

なぞと書いて。

理由を聞くと、小声でゴニョゴニョ言っている（みんな）・・・

「はあ〜分かったよ。入ればいいんだろ〜」

「本当ていうか（ですの）？」

中へ入ると、ワンピースやらミニスカートなど・・・いろいろある。

「龍牙さんこっこんなのとうですか？／／／／／」

初春の方を見ると、水玉模様のワンピースを持っていた。

「んー俺的には、結構似合っていると思うよ」

「本当ですか／／／／／」

「おう」

「えへへ〜／／／それじゃ〜買ってきますね／／／」

やっぱり、こういう時間が一番幸せだわー！。風紀委員の仕事より一万倍幸せだああ。

しかし、よく考えると俺って今ハーレムじゃね？・・・・・・・・・・

．．んなわけねえか、なんたつて黒子もいるしな．．．．．
．．．．．などと考えていると

「龍牙ーーーー、これ似合う?。」

「んっどれどれ．．．うーん俺は、こっちの赤のチェックの
スカートが似合うと思う」

「ホントに~~~~」

「本当だ」

「んじゃ、買つてくま~~~~す」

「おい佐天．．．．．」

「ん~~~~に．．．．．」

「俺が選んだやつでいいのか?。」

「うっうん、いいよ／＼／＼／」

「ふーんならいいや……でもよく似合うよそのスカートとその服！」

「あっありがとう／＼／」
「といって佐天は買いに行った。」

ツンツン……ツンツン……

「んっなんだ黒子じゃねえか、どうした。」

「いついや、そっその／＼／＼／」

「何だよ」

「ふっ服を選んでほしいんですの／＼／＼／＼／＼／＼／
／／」

「服？、何だそんなことかよ」

「そっ／／／そんなこととはなんですよ！／／／／／」

「はいはい、すみません……っこんなんどうだ！」

つと俺が見せたのは、メイド服+猫耳セット………（何であるのか知らない）

「あっあなたはこんなんが好きですよ？／／／／／／／／／／／」

「好きだ――――――／／／」

いやゝ俺の理想は、朝起きたらメイド服を着ている女の子が

「朝です、起きてください／／／／／／／／／／」

などと照れながら起こされるのが夢だ。

「というわけで黒子、メイド服着てくれない／／／」

「なっなんでわっわたくしですよ／／／／／／／／／／」

「だって似合いそうだし………」

デート?.....かな(後書き)

感想よろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9702o/>

とあるバカな風紀委員

2010年11月22日20時44分発行